

えらぶ避難所ニュース(2号)

発行事務局:えらぶ年寄り組
発行日:2015年6月4日

被災者の情報格差をなくすため、帰島を渴望する島民の結束のために、このニュースをお届けします。

3つの避難所では、代表者を選出し、合同の会合も開かれるようになりました。朝夕の食事時に、お知らせがあり、情報環境が良くなってきました。

日々、情勢は変化し改善しています。しかし、避難所以外の皆さんとの情報格差はなくなっておりません。実際にも、情報がないので、避難所に戻る島民がおられほどです。

被災者の皆さまへのお知らせ **重要**

第2次避難所の件です。

屋久島町による第一回の聞き取り調査では、公営住宅の他に、空き家や民宿などを選ぶ項目がありました。当初、屋久島町には、仮設住宅を建てるつもりはなかったようです。

ところが、今朝6月4日、町からの連絡があり、仮設住宅を建てるよう方針転換したようです。費用の点からでしょうか。再度の聞き取りがあるかもしれません。

屋久島町の皆さま

屋久島町の皆さまからは、各避難所へのお見舞い、差し入れや、ボランティアでの支援などをいただいております。心よりお礼申し上げます。

最近、屋久島観光センター2階のレストランで避難島民が一堂に会して夕食をいただいております。

「縄文の苑」避難所では、

昼食時、ボランティアの方々の給仕サービスを受けています。いなり寿司、シカ肉などの差し入れを美味しく頂いたのですが、食べきれなくて申し訳ないときがあります。ご厚意に心よりお礼申し上げます。

島外の被災者・縁者から

◆鹿児島市の被災者 から**尚*様 6月2日

ポータルサイトの、【えらぶ避難所ニュース】とてもありがたいです。

鹿児島にいと、何も情報がもらえず、テレビとネットを見ている毎日です。

避難所の方も大変そうなので、電話をするのも気が引けるので、とても頼りになります。

これからも【えらぶ避難所ニュース】をよろしくお願いします！

◆鹿児島島の被災者 日**様から 6月3日

ポータルサイト見えています……と、電話でお聞きしました。

◆ネットでの連絡方法の提案 被災者縁者様から 6月3日

口永良部島ポータルサイト 管理者様

初めまして。私は、**と申します。**の**の家族の者です。

このたびの新岳噴火により避難を強いられている方々に心よりお見舞い申し上げます。ポータルサイトを拝見させていただき、パスワード付きの掲示板をお求めであることを知り、即席ではございますが、掲示板を構築いたしましたのでご連絡を差し上げました。

URL は次の通りです。

<https://ss1.coressl.jp/erabu.dgrfactory.jp/1/index.php>

もしよろしければ、お試しいただければと思います。念のため、個人情報 を多量に書くことに関しては、お奨めいたしません。お試しとして、「重要なお知らせ」と「テストフォーラム」のグループを作成いたしました。（**）

島外の皆さまからのメールです

ポータルサイトに寄せられたメールです。プライバシーに配慮し匿名化しています。掲載許可は得ておりません。不都合であれば、メールをお願いします。

◆ペットのこと 6月2日

お忙しいと思いますのにお返事ありがとうございます！

ご担当者様へ転送して頂きまして感謝いたします(><)

島の皆様の平穏が一日も早く訪れますよう心よりお祈りしております。

本当にありがとうございました。

北**子

事務局から

「帰島する」……を、実現するために、

2000年に全島避難した三宅島の教訓を参考になります。ネットが得意な人(被災者のご親戚・ご友人ふくめ)がいらっしゃれば、情報収集してください。

◆ホンの一例ですが、

三宅島 <https://www.itscom.net/safety/column/184.html> を引用させていただきました。

その時の様子

<2000年9月2日にはじまった全島民の避難は、2日後の9月4日には完了。三宅島から避難してきた住民や職員が東京に移動してきたのを機に、“三宅島の支援にあらゆる組織が協力できるようにしておかないといけない”との考えの下、『東京災害ボランティアネットワーク』が中心となって『三宅島災害・東京ボランティア支援センター』を立ち上げた。

島を離れた島民は、オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区代々木)へ一時避難。すぐに都営住宅等へのあっせんがはじまり、9月8日に完了する。

「短期間で島民が散らばってしまったから、この時点で約3800人の所在がわからない状態になってしまった。東京、一部は神奈川、親戚の家を頼った島民は都外の地方にも行ってしまったからね。島民同士が把握できる状況では、到底なかった。だから、それを『三宅島災害・東京ボランティア支援センター』の最初の活動とすることにしたんだ」(U氏)

“住民同士がお互いの所在を把握できるように”と電話帳を作ることにしたのだ。しかし、個人情報保護が壁となって簡単に作成することができず、方法を模索することとなる。>

お願い「えらぶ避難所ニュース」の内容に関して、マスコミの取材には応じることはできません。